令和3年度　学校自己評価　および学校関係者評価結果　　4段階評価（ A:十分できている B:ほぼできている C:あまりできていない D:全くできていない ）

CE＝臨床工学技士科、 DT＝歯科技工士科、 DH＝歯科衛生士科

評価項目	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
（1） 教育理念・目標				
○学校の理念・目的・育成人材像	A	A	・博多学園建学の理念である「全人教育」「自立・共存」「地域社会への奉仕」を堅持し、校訓「徳性の涵養」「気力の充実」「技術の錬磨」にあるように、「徳性を涵養し、専門知識及び専門技術の向上を図り、社会性・創造性豊かな人材を育成する」という教育方針に基づき教育を行っている。教職員には教職員便覧、教職員研修会等で周知徹底している。 平成28年11月に新たに学園指針として「心が志を、志が人成を」を定め、「心を育み、志を立て、夢を実現し、豊かな人生を築き、人間として成長する」という人生に深く関わる教育の実践を掲げ、その行動指針として「私たちは笑顔と向上心で挑戦します」「私たちは愛情と情熱を持って学生の未来を拓きます」「私たちは互いを信頼・尊重し行動します」という博多学園全体としての「私たちの誓い」を平成30年度に作成した。また、学校長の具体的目標としてエンロールメント・マネージメント(入学前から卒業後まで一貫した経営・教育マネージメント)による3科定員確保、3科国家試験合格100%、3科希望進路100%達成を掲げ、教職員一同努力を重ねている。	・適切な対応が図られていると認められる。
○職業教育の特色	A		・職業実践専門課程として、より実践的な職業教育を行っている。講義と実習が融合するカリキュラム、業界最先端の技術を学ぶ企業連携授業、豊富な臨地・臨床実習、チーム医療に欠かせないコミュニケーション能力養成講座等、心豊かな人間性と高い専門性を身につけた医療専門職の養成に努めている。	
○地域社会等のニーズを踏まえた学校の将来構想	A		・各業界から寄せられるニーズに対し的確に対応し、求められる職業人を育成するよう、教員のスキルアップ、カリキュラムの継続的な見直しを行っている。「喫煙」については、平成30年度より敷地内完全禁煙を実施、薬剤師による禁煙教育や危険ドラッグについての講演も継続している。 ・令和2年度末の教職員研修時に国連ハビタット福岡本部是澤氏のセミナーを受け、令和3年度冬期教職員研修時において、各学科および事務室の取り組みを紐づけした「博多メディカル専門学校SDGs」の作成を行った。また、令和4年度の50周年事業としてのSDGs取り組みについても検討を進めた。	
○学校の理念・目的・育成人材像などの学生・保護者等への周知	B		・学生には入学前の体験入学時に説明し、入学後は学生便覧や入学後の各科オリエンテーション、宿泊研修会等で周知。保護者には、入学式後のオリエンテーションで説明している。ただし、令和3年度においては昨年度に引き続きコロナ禍の影響により宿泊研修の実施ができず、入学式も保護者来場不可としたため、周知方法が限定的となった。	
○学科毎の教育目標・育成人材像と、学科毎に対応する業界のニーズとのマッチング	B		・いろいろな機会を捉えて業界ニーズの把握に努めており、毎年の教員研修・カリキュラム編成に生かし、各科の教育課程編成委員会で審議している。DTでは、令和元年度からの単位制移行に伴いカリキュラムを大幅に改定し、よりわかりやすく実践的なカリキュラムとした。DHでは「専門的口腔ケア実習」に注力し、多職種連携によるチーム医療に対応できる歯科衛生士養成を目指している。CEも企業連携授業や本校OBの講演等で、最先端の技術と業界の今を学び、業界動向・ニーズに合わせたカリキュラムの改変を行っている。	
（2） 学校運営				
○目的等に沿った運営方針の策定	B	A	・理事長経営方針に則り、学校長が専門学校経営方針を策定する。 令和3年度は、経営方針を『創立50周年に向けて～「人材育成」「教育の質の向上」「学習環境」の3本柱を重点項目とし、地域とステークホルダーに愛され信頼される学校づくりを目指す～として、建学の理念・校訓をバックボーンに置き、「学生募集」「専門教育」「キャリア支援」等教職員が一丸となって情報を共有しながら計画的・組織的に運営している。課題は、そのPDCAサイクルを周期的に回すことにある。	（2）学校運営について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
○運営方針に沿った事業計画の策定	A		・経営方針に則り、教務主任を中心に事業計画を策定している。 具体的内容は、各科の自己評価で説明。	
○学校の運営組織や意思決定機能について、規則等における明確化とその有効化	A		・「学校運営規則」により明確にし、教職員便覧に掲載し徹底を図っている。	
○学校運営上の各種規程の整備状況	A		・学校法人博多学園諸規程、学校運営規則等により整備されている。	
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備状況	A		・学校法人博多学園諸規程、学校運営規則等により整備されている。	
○業界・地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備	A		・平成25年度の本委員会指摘によりコンプライアンス体制の整備を行うと共に、情報セキュリティ体制も強化しており、十分な整備が図られている。	
○教育活動等に関する情報公開	A		・平成24年度より学校概要・学校評価・財務など必要な情報は公開済。日々の行事や受験情報などは、ホームページ、SNS（Instagram、Twitter、LINE、Facebook）で発信している。 ・令和2年度からは、各科担当を決めて2週間に1度はSNSの更新を実施している。	
○情報システム化等による業務の効率化	B		・日常の運営に関するものはほぼシステム化されており、効率的に運用されている。 ・教職員全員を対象としたiPad貸与・LINE Works活用等により、即時に情報を共有する取り組みを実践し効率化を図っている。	

令和3年度　学校自己評価　および学校関係者評価結果　　4段階評価（ A:十分できている　B:ほぼできている　C:あまりできていない　D:全くできていない ）

CE＝臨床工学技士科、 DT＝歯科技工士科、 DH＝歯科衛生士科

評価項目	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
（3） 教育活動 （目標設定等） ○教育理念等に則した教育課程の編成・実施方針等の策定 ○教育理念・育成人材像等を踏まえた科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の適正化	A A	A	・学校長と連携しながら教務主任を中心に目標設定を行いカリキュラムを作成し、教育課程編成委員会で審議後カリキュラムが完成。その後シラバスを整備する。 ・昨年度には、平成26年度から掲げている各科のカリキュラムポリシーを6年ぶりに見直し、現行のカリキュラムに対応した内容にリニューアルすることができた。 ・厚生労働省が定める各科の養成所指定規則を踏まえ、過重な教育時間にならないよう留意しながら、各学年の到達レベルも考慮してカリキュラムを作成している。DTでは、単位制移行に合わせ、抜本的なカリキュラム変更を行い、より分かり易く実践的なカリキュラムとなった。	（3）教育活動について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
（教育方法・評価等） ○学科等のカリキュラムの体系的な編成 ○キャリア教育・実践的な職業教育等の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発 ○科毎の関連業界・企業等との連携によるカリキュラム等の作成・見直し ○科毎の関連業界・企業等との実践的な職業教育の体系的位置付け ○授業評価の実施・評価体制 ○職業教育に対する外部関係者からの評価体制 ○成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準の明確化	A A A A B B A	A	・文部科学省・厚生労働省令である各科養成所指定規則、および本校カリキュラムポリシーに基づき各学科の中で議論したカリキュラム案を、教育課程編成委員会で議論し、修正・改善したものを職員会議で決定し、シラバスにまとめている。DTでは、単位制移行に伴い全面的にカリキュラムとシラバスを見直し、体系的で革新的なカリキュラムが構築できた。 ・令和5年度の臨床工学技士科カリキュラム改定に向けて、早期より情報収集に努め、改定における課題点を整理するとともに、教育課程編成委員等への周知・相談等を通じて助言を求めるなど、質の高いカリキュラム編成となるよう検討を進めている。 ・卒業後すぐに実践出来るようになるための多様な実習を取り入れたカリキュラムとなっており、各科毎年見直しし、改善している。医療人としてのコミュニケーション、実習前のOSCE、実習後の発表会等、毎年内容も見直ししている。DTでは九大病院見学、企業でのインターンシップなど多様なキャリア教育を実践している。 ・令和3年度はコロナ禍において、一部分散登校や遠隔授業などの、昨年度に引き続く教育環境の整備が求められ、一方では時間割や臨床実習の変更を再三余儀なくされるなど、非常に難しい状況にも直面したが、これまでのコンテンツの蓄積やリモート学習の実践をもとに、限られた時間において的確かつ柔軟に対応することができた。 ・各科の教育課程編成委員会に、各科業界団体および有力企業・病院等から参加いただき、実践的な職業教育のためのカリキュラムを検討している。 ・平成27年2月17日付で文部科学大臣より各科共「職業実践専門課程」の認定を受けた。CE・DHは病院等での実習がカリキュラムに組み込まれており、実習担当者からの評価も受け進級・卒業判定にも影響がある。 DTでは、平成26年度より企業3社と連携授業を行い、最先端の機械・器具を用いた授業を行っている。CEでも平成27年度から企業と連携した先端医療機器の授業を行っている。 ・平成28年度から、専任教員の授業の学生アンケートを導入した。教員の自己評価と学生の評価を点数化し、グラフで視覚化することにより、評価をわかりやすくした。平成29年度からは非常勤講師の希望者に学生アンケートを実施し、平成30年度からは非常勤を含め全教員に実施した。また、平成30年度から専任教員は全員公開授業を実施し、より質の高い授業を目指している。 ・学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の検討時に外部委員からの評価は行われているが、いわゆる第三者評価は実施していない。教育の質保証の観点から、第三者評価の必要性は認識しているが、すぐに導入することは事務体制面、費用面から難しい。 ・担任・副担任が資料作成 → 教務会議 → 判定会議の手順で行う。 基準については学則で明確にしている。	・適切な対応が図られていると認められる。
（資格試験） ○資格・検定取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付け	A	A	・各科共、国家資格取得が最大の目的であるため、すべてはそのためのカリキュラムが組まれており、各種検定試験（CE～ME2種・1種、ﾋﾞｼﾞﾈｽ検定、情報処理検定、 DT～ﾋﾞｼﾞﾈｽ検定、DH～秘書検定、日本口腔ケア学会認定資格5級）もその一部に組み込まれている。	・適切な対応が図られていると認められる。
（教職員） ○人材育成目標の達成に向けた授業が行える教員の確保 ○関連業界との連携による優秀な教員の確保体制 ○関連業界の先端知識・技能の修得、教員としての指導力・資質向上のため研修等 ○教職員の能力開発のための研修等	B B A A	B	・現在の専任教員は、経験も十分で資質・技量とも全く問題ないが、退職者が出た場合は、各業界団体やOBと連携を図りながら優秀な教員の確保に努めている。 ・非常勤講師については、福岡県歯科医師会や九州大学からは講師派遣について直接支援をいただき、また各科の業界団体からも協力いただき、一流の講師陣を確保している。 ・参加を予定していた各業界団体主催の教員研修会、福専各主催の研修会等はコロナ禍のため中止となるなど影響が大きかったが、Webによるリモート講義や研修会への参加により、専門性と教育技術を高めるための手段を、より効率的に得られるようになった。 ・学内では、夏期・冬期・年度末に研修会を設け、外部講師の講演や教育に関する討論等を行っている。令和3年度は、学習指導を実施している教育系の企業による外部研修を全教職員で受講したほか、各科でもそれぞれの課題を検討し、カリキュラムポリシー見直しの実践ができた。今後の課題としては、主体的な個別の研修も必要である。	・適切な対応が図られていると認められる。 外部研修の内容を確認 若者の国語力低下の現状、および低下による教育的課題についての研修を実施

令和3年度　学校自己評価　および学校関係者評価結果　　4段階評価（ A:十分できている　B:ほぼできている　C:あまりできていない　D:全くできていない　）

CE＝臨床工学技士科、 DT＝歯科技工士科、 DH＝歯科衛生士科

評価項目	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
（4） 学修成果				
○就職率の向上体制	B	B	・各科共、国家資格が取得できないとその職業につけない職種のため、1年次より、高い職業観の醸成と国家試験対策に取組み、国家試験100%合格、100%就職を目指している。 ①国家試験合格率　[CE] 82.1%（90.9%）、[DT] 94.1%（100%）、[DH] 97.9%（87.0%）（）は前年度実績 ②就職・進学率　　[CE] 96.9%(93.3%)、[DT] 100%(100%)、[DH] 95.7%(100%) ※①は実受験者に対する合格者、②は国家試験合格者に対する就職・進学者より算出	・適切な対応が図られていると認められる。 左記①および②について、数値の算出方法について確認。
○資格取得率の向上体制	B		・1年次より各科共各種資格取得に取組み、さらに国家資格取得へと繋げている。	
○退学率の低減対策	B		・学生との個人面談を実施し、学習面・生活面の指導・支援により、脱落者が出ないよう教員全体で取り組んだが、令和3年度は退学者が10名（[CE]3名、[DT]1名、[DH]6名）となった。 (令和2年度は7名） 【学年別の内訳】1年生8名([CE]2名、[DT]1名、[DH]5名)、2年生1名[CE]、3年生1名[DH] 【退学事由】体調不良・経済的事由・学業不振・進路変更　等	退学に関する時期および事由について確認。
○卒業生・在校生の社会的な活躍等の把握	B		・令和4年度の50周年に向け、同窓会組織の強化も兼ねて、ホームカミングデイを実施している。また、教員による卒業生の就職先訪問も実施している。活躍する卒業生に講演を依頼することで、在校生のモチベーションアップにも繋げている。	
○卒業後のキャリア形成の把握と教育活動改善への活用	B		・平成27年度より同窓会主催の卒後研修会を実施している。	
（5） 学生支援				
○進路・就職に関する支援体制	B	A	・各科毎に外部講師による就職セミナーを実施。 就職担当教員と事務室で、求人票の管理、学生相談、面接指導等を実施。企業見学や校内での企業説明会も随時実施。 就職を計画的・組織的に進め、早い段階で内定を取り、国試対策に集中する。	・適切な対応が図られていると認められる。
○学生相談に関する体制	A		・前期・後期で担任が個人面接を実施。必要に応じて、顧問のカウンセラーを招いての相談も実施。それ以外にも、随時相談に応じる体制を取っている。	
○学生に対する経済的な支援体制	A		・令和2年度より開始された「高等教育の修学支援新制度」の認定を受け、令和3年度は前期・後期合わせて 80名（[CE] 24名、[DT] 15名、[DH] 41名）が対象となった。（前年度74名） ・博多学園奨学金、日本学生支援機構奨学金およびオリコとの提携ローンなどの紹介。 ・平成26年12月25日付で厚生労働省から各科「専門実践教育訓練講座」の指定を受け、社会人のキャリア形成に対する教育訓練給付金が平成27年度より該当者に給付された。 （平成29年度新規8名、平成30年度新規7名、令和元年度新規5名、令和2年度新規3名、令和3年度新規6名、令和4年度新規7名）	
○学生の健康管理を担う組織体制	A		・年度当初に健康診断を実施。体調不良時は、校医(安元医院)を受診するよう促している。 ・保健衛生委員会で、インフルエンザ対策等学生の健康管理を担当。日常的には担任がホームルームでチェックしている。コロナウィルス対応では、3密を防ぐよう工夫している。	
○課外活動に対する支援体制	B		・放課後、各科の補習等に教室、図書室、PC教室等を利用。	
○学生の生活環境への支援体制	A		・民間学生寮やアパート等の業者紹介を実施。 ・コロナ禍における独り暮らし学生に対する生活支援として、地元複数の企業に協力を仰ぎ独り暮らしの学生を中心に、食糧支援を2回にわたり実施した。（対象学生 110名）	
○保護者との適切な連携体制	A		・日々の状況(体調、成績、行事、研修、ワクチン接種、実習参加等)に応じて連絡を行うなど工夫している。成績不良者や学校生活に問題のある場合は、その都度連絡を行い、必要に応じて来校いただいている。また、授業料等の延納などについても、早めに連絡をとり、放置せず柔軟な対応に努めている。	
○卒業生への支援体制	A		・国家試験不合格の卒業生は、補講を行ったり聴講生として受け入れたりしている。 ・教員が卒業生の職場を訪問し、状況を確認したり相談に乗るなどフォローも実施している。 学校でも、技術指導やアドバイス、再就職等いつでも相談できる体制を取っている。 ・同窓会でもホームカミングデーを実施し、卒業生が集まれる場を提供している。	
○社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備体制	B		・AOⅠ期入試は社会人限定で行っており、AO(Ⅱ・Ⅲ)入試と一般入試は社会人も受験できる。働きながら学ぶことへの対応は現状難しいが、正規の学生としては十分な対応を実施している。 特に、3科共に国の専門実践教育訓練講座に指定されており、社会人の学費支援に貢献している。	
○高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	A		・CE・DHでは博多高校の看護専攻科と連携し、職業講話や体験授業などを実施、またDHは普通科1年生への口腔衛生実習も実施している。 高校からの依頼による臨床工学技士・歯科技工士・歯科衛生士の職業ガイダンスも随時実施している。 ・また、令和3年度からは文科省が後援する「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」（専門学校と高等学校、教育委員会等の行政及び企業と協同で、高専一貫プログラムを構築する事業）に積極的に参画している。	プログラムの内容・目的について確認。 ［目的］ ・高校生から始める福岡県民の健康作り ・福岡県民の健康作りに重要な歯科衛生士を増やす
（6） 教育環境				
○施設・設備の整備体制	A	A	・平成23年度に新校舎完成・移転した時点で、教育施設はほぼ最新の設備となった。以後も、DTへのCAD・CAM、DHのユニットの買い替えやデジタルパノラマ装置、CEの人工心肺装置、令和3年度にはDTで3Dプリンターを購入するなど、最新設備の整備に努めている。 ・また、令和3年度には照明器具の更新工事を実施し、校内の照明器具全てをLED化に整備した。	(6)教育環境について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
○実習施設・インターンシップ等の教育体制の整備	A		・CE、DHの実習施設は十分確保出来ている。DTのインターンシップ先も毎年増加している。	
○防災に対する体制の整備	A		・防火・防犯委員会を中心に、火災時の避難訓練や、地震時のシェイクアウト訓練を実施、非常時用の備蓄、危機管理マニュアルの整備等を行っている。平成27年度新入生より、防災サバイバルセットを購入し備蓄している。	

令和3年度　学校自己評価　および学校関係者評価結果　　4段階評価（ A:十分できている　B:ほぼできている　C:あまりできていない　D:全くできていない　）

CE＝臨床工学技士科、 DT＝歯科技工士科、 DH＝歯科衛生士科

評価項目	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
（7） 学生の受入れ募集 ○高校等への情報提供体制 ○学生募集活動の適正性 ○募集活動における教育成果等の正確な伝達 ○学納金の妥当性	 A A A B	A	・福岡県はもとより、九州各県・沖縄・山口県の高校450校にパンフレットを送付。 高校訪問も積極的に行い、高校教員への広報活動や、生徒へのガイダンス等に注力している。また、ホームページにも注力し、学校概要他本校の各種データを公開、令和元年度からはシラバス、成績評価基準など公開項目も拡充し、ブログやSNSなどでも最新の情報を発信している。広報用動画の作成にも取り組み、学生募集に注力した。 ・令和3年度は、コロナ禍の影響で県内・県外各地域や高校個別の状況に合わせ、高校訪問等も一部限定的な対応となったが、資料送付や電話連絡等による対応や、オンラインによる学校紹介実施などの手段継続等により、広報活動を多角的に実践することができた。 ・学生募集は、法令や高校進路指導協議会方針等を遵守し、適正に実施している。 ・各科国家試験合格率を始め、学校概要、職業実践専門課程の基本情報はホームページに公開しており、正確なデータを伝えている。 ・近隣の同学科と比較して妥当な水準。	（7）学生の受入れ募集について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
（8） 財務 ○中長期的な学校の財務基盤の安定性 ○予算・収支計画の有効性・妥当性 ○会計監査の適正性 ○財務情報の公開	 B A A A	A	・専門学校単体では必ずしも安定しているとは言えない面もあるが、学校法人博多学園の中長期的な財務基盤は安定している。 ・年度初めに予算を確定し、予算に即して実行している。 ・監査法人、学園監事による監査を実施。 ・平成24年度よりホームページで直近2年分を公開している。	（8）財務について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
（9） 法令等の遵守 ○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営 ○個人情報保護対策 ○自己評価の実施と問題点の改善 ○自己評価結果の公開	 A A B A	A	・法令を遵守し、コンプライアンス宣言をはじめ各種規程も整備している。 ・過去2年間にわたる教職員勤続時間データを蓄積し分析した上で、令和2年度より年間変形労働時間制を導入した。また、時差出勤制度も併せて導入し、時間外労働の削減に繋げることができた。労働基準法上の年間5日間有給休暇取得義務についても教職員全員が完遂し、ワークライフバランスを意識した働き方に努めた。 ・SKYSEA導入を始め情報セキュリティ対策を高度化し、情報漏洩が発生しないよう、規程の整備、全教職員へのセキュリティ研修実施など運用強化を図っている。月に一度学園全体として情報セキュリティ担当者会を開催しインシデント報告等を行うなど、個人情報の管理を徹底している。また、マイナンバー制度にも学園に専門部署を設け適切に管理している。 ・学校関係者評価委員会での指摘・意見等を踏まえ、極力早期に検討・改善を行っている。 ・学校関係者評価の内容を十分反映した評価結果を、平成24年度よりホームページで直近2年分を公開しており、令和元年度より公開する項目を増やした。	（9）法令等の遵守について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
（10） 社会貢献・地域貢献 ○学校施設等を活用した社会貢献・地域貢献活動 ○学生のボランティア活動の奨励・支援 ○地域に対する公開講座、教育訓練等の実施	 B B B	B	・学校施設を学科関連業界・企業に利用してもらうことが、社会貢献への一助に繋がる。 令和3年度はコロナ禍の影響で、業界団体・企業セミナーの利用は僅少であったが、平成27年度より令和3年度も引き続き、歯科技工士国家試験会場として提供している。 地域との関係では、文化祭で施設を開放しているほか、1階ピロティをコミュニティスペースとして開放している。 ・学生指導・地域対策委員会や学生によるボランティア活動～地域の歩道・道路清掃活動など ・業界団体の街頭アンケート活動や「福岡市民の健康を歯と口から守る集い」「KASUYAデンタルフェア」「高齢者施設の夏祭り」などに学生を参加させている。 ただし、令和3年度については、昨年度に引き続きコロナ禍における相次ぐイベント中止・規模縮小や、活動自粛要請の影響により、実施準備は進めていたものの十分な活動が実施できなかった。 ・DHは舞松原公民館で歯科講習会を実施。 ひまわり祭の際には、来校者に対しCEは簡単な健康診断、DHはPMTC（ Professional Mechanical Tooth Cleaning　専門家による機械的な歯面清掃）等を実施している。また、地元老人クラブを招いて、CEは健康セミナー、DHは歯や口腔機能向上のセミナーを実施。幼稚園実習の際には、保護者への口腔衛生指導も行っている。 ただし、令和3年度についてはコロナ禍の影響により、十分な活動ができなかった。	（10）社会貢献・地域貢献について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
（11） 国際交流 ○国際交流についての体制	 A	A	・平成14年11月、韓国　釜山カトリック大学と姉妹校提携、以降毎年交流を続けている。（DT） また、研修旅行でも平成27年・28年にCEが国立台湾大学醫学院付設醫院を訪問、平成29年はDTが台湾で開催された国際歯科技工学術大会に参加するなど、国際交流の機会を設けている。 ・国際交流を視野に入れ、インドネシアdopang（歯科医療グループ）との連携を図り、インドネシア歯科技工士へのリモート教育を、令和3年度には年間24回にわたり実施した。	・適切な対応が図られていると認められる。

令和3年度　学校自己評価　および学校関係者評価結果　（　臨床工学技士科　）　4段階評価（　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D:達成できなかった　）

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
①目標	国家試験合格100%	全員合格１００％	C	B	自己採点 受験者39名 合格予定32名 合格率82.1%	・適切な対応が図られていると認められる。 →国家試験の全国平均合格率(80.5%)を確認。 本校は全国平均を上回っているが、不合格者に人数より評点を導いていることを確認。
	各学年における退学者防止 全員進級	①資格取得・医療従事者への意識付け、勉強へ集中するクラス運営を実施する。 4月始業日にオリエンテーションを設け、各学年における臨床工学技士になるための目標立てを行うなど3年間を通してのオリエンテーションを構築する。 ②臨床工学技士への憧れを持たせる授業工夫や現場CEによる講義や講話を設け、年間を通してのﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ低下防止を図る。 ③日頃から学生の履修状況を把握し、授業の履修状況によっては面談や補習などを盛り込み低学力者へのフォローを行う。 4月からオフィスアワーを導入する。	B		①4月始業日に各学年でのオリエンテーションを実施、学年ごとでの年間目標立てができた。特に夏期休暇後は、個人面談に利用し、目標の振り返りや追加、見直しを行い、学生主体を意識した指導につながった。 ②退学2名（1年：1名、2年：1名） いずれも進路変更による退学、担任副担任による頻回の面談や保護者連絡の実施を行った。 ③各学年に応じた取り組みができた。 1年生：毎日、過去問題を利用した朝学習の導入 余裕ある出校の定着、テスト前勉強への役立てより学科試験への早めの対策ができた、 例年、不合格者が多い科目も軽減し進級保留者数も前年度より減っているなど学力向上につながった。 2年生：自己学習の成果の見える化 夏期休暇時に強化したい科目を決め（3科目）、休暇中の自己学習を課した。 夏季休暇後の模試結果で成績向上がみれた。 3年生：4月からのｵﾌｨｽｱﾜｰの実施、国家試験出題科目の定期試験と補講の実施、 定期的な過去問題集を配布	
	遅刻・欠席者の減少	8:45には更衣を済ませ退出完了、全員8:50着席を目指す。 HRでの繰り返しの声掛けや月出席状況の掲示するなど学生自身に把握させ、数回続いた学生には面談を行い改善策を検討する。 同時に保護者連絡を行う。	B		【1年生　精皆勤率93.2%】 朝学習効果もあり、4月の段階よりほとんどの学生で8：45集合の徹底ができた。 【2年生　精皆勤率75.6%】 年度初めより遅刻が多かった為、時間厳守をクラス全体での目標として取り組みした。クラス全体の問題点と捉え、改善行動を促すことで遅刻が減ってきた。 オンライン講義（5月・9月・1月）では大変緩み、遅刻が増えた。 遅刻数を掲示し、クラス内共有と見える化を行った月は遅刻者が減ってきた。成績不振者には遅刻も多くみられるため、個人面談や放課後補講の実施. 改善がみられない特定の学生には繰り返し指導をおこなった。 【3年生　精皆勤率97.4%】 ただ挨拶するのではなく、マナーや姿勢などにも気を配り挨拶するなど、もうワンランクアップした取り組みをした。	
	医療人・社会人教育の実践	①医療従事者としての自覚を持ち行動できる学生を育成する。 4月始業日にオリエンテーションを設け、各学年における臨床工学技士になるための目標立てを行うなど3年間を通してのオリエンテーションを構築する。臨床工学技士になるという意識付けに活用する。 ②学則に則り、ぶれない指導を実践する。医療従事者として身につけるべき指導ポイントを科内で共有しあい、ベクトルを合わせる。 コミュニケーションの基本である心配りや気遣い、感謝や御礼といった挨拶、敬語や報告などのビジネスマナーの基本を教員自ら実践する。 ③外部講師等による禁煙指導を再開する。	B		①各学年、年度初めのオリエンテーションや目標シートを利用し、個人面談を通してフィードバックしながら学生への意識付けを心掛けた。 ２年生では責任感・主体性向上を目的とした「掃除チェックリスト」を学生に作成させ、取り組みした。 チェック基準が共有化できたため、自主的なチェックができ、掃除をさぼる学生への抑止力にもつながり、日頃から責任感を意識させる指導ができた。 ②教務会議や終礼を通して、各学年の問題点や指導ポイントの共有はできた。 また、柴戸先生のご講義で指摘された点を教員間で共有し、すぐに学生指導につなげ、言葉遣いやマナー、ホウレンソウなど社会人教育にも全教員で取り組んだ。	
	オープンキャンパスの充実	前年に引き続き、SAと協力した”かっこいい””楽しい”と感じるオープンキャンパス内容を実施、参加者数の増員、出願率70%を目指す。 大学にはない当校の強みと魅力、学内の取り組みを紹介できる動画を再作成する。 知名度upにつながる活動を継続検討する。	B		参加者の名前をわかりやすくするために、SAのメッセージやイラスト入りの名札（机に張る席札）の工夫をした。 SAへ質問がしやすいように、事前に質問用紙を集めたりWeb参加者でも一緒に体験できる内容となるよう工夫をした。	
②カリキュラム	国家試験に合格させることができる授業の実施	国家試験過去問題が解ける授業となる学習目標(GIO)・行動目標（SBOs)を組み立てたシラバスの作成、授業設計を行う。 様々な応用問題に触れさせるために、演習問題集やCE-PassNETを活用する。	B	B	今年度もオンライン講義が実施されたため、積極的にCEPASSNETを利用した。 ME2種対策や国家試験対策でも定期配信し、自己学習強化をした。	・適切な対応が図られていると認められる。 →当初の自己評点「B」に対し、「新カリキュラムへの準備」は進めることができたことから「A」に変更する。
	新カリキュラムへの準備	臨床工学技士教育カリキュラム変更（2023 年 4 月以降の入学生から適用予定）に向けて、情報収集を行いながら新しいカリキュラム構築の準備をはじめる。	A		新カリキュラム・タスクシフトシェア内容に関しては、教務会議、教育課程編成委員会や外部研修への参加を通して共有できた。 新カリキュラム構築への準備として、現行カリキュラムの問題点洗い出しができた。	
	シラバスの精査継続	新カリキュラムに向け、専任教員のシラバス精査に着手する。 非常勤講師のシラバスは、特に専任教員と連動している科目について精査を行う。	B		特に工学系科目のカリキュラム内容、次年度シラバス変更の検討ができた。	

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
③臨床実習・病院見学・インターンシップ	臨床実習に必要な知識・技術の向上	①経験していない臨床実習への不安を取り除けるよう事前準備をしっかり行い臨床実習へ臨ませる。 臨床実習オリエンテーションの実施（6～9月中、2回以上） 2，3年生合同事例検討会を通して実習中態度や言葉遣いなど実習生として必要なマナーや姿勢、実習に対する意識付けをおこなう。 実習ノート（レポート）の書き方を学ぶ合う「レポート検討会」を設け、臨床実習で求められる知識とレポート力の事前指導をおこなう。 ②学内では学べない臨床独自の内容に関しては、病院側の協力をいただき動画など映像を入手して、事前・事後学習に活用する。	B	B	臨床実習期間の直前まで緊急事態宣言期間となり、施設によっては臨床実習の受入れ期間が延期されたため、時間割（臨床実習期間）のを延長する結果となったが、2・3年生全員の臨床実習が実施できた。 ①時間割変更で2・3年生合同オリエンテーションの機会は減ったが、特に2年生は初めての臨床であるため、レポートの書き方や報告の仕方などグループワークを実施した。 今年度、毎日の報告はGメールを利用（就職活動でメールでのやり取りが増えているため、メール作成の指導を兼ねる）。全教員で2・3年生の報告や文面の指導を行った。 また、実習期間が多く分かれた（5パターン）ため、伝達不足がないように、各週で2・3年生合同の伝達会を実施した。 ②着手できなかった。	・適切な対応が図られていると認められる。
	OSCEの充実	3年生：3年生における臨床実習で求められる最低知識・技術を図る試験内容。呼吸・循環分野以外の内容も盛り込めるか再度検討する。 2年生：前年度同様スタイルで実施。特に接遇スキルに関しては学内実習で取り組みをさせOSCEに臨ませる。	A		臨床実習期間延長による時間割変更より、各学年2回に分けてのOSCEを実施。 3年生：呼吸・循環・集中治療（患者ベット回り）とブースを増やした。 2年生：実技を充実（薬剤準備）、接遇（実施が臨床実習後、1年生患者）	
④国試対策	各学年における取り組み	①1年次からのオフィスアワー、補講の実施。 自主学習時間を確保し、講義の理解・知識の定着をサポートする。 ②学生の成績状況を教務会議で確認、年度末にバタバタとしない成績向上手法や取り組みを協議する。	A	B	①ME2種・国家試験前はオフィスアワーを定期的に実施 特に苦手科目に関しては、修了試験前に補講を実施 ②各学年の成績不良者に関しては、終礼や教務会議で共有し、補講を実施するなど行ったが、学業への取り組み姿勢の改善や成績向上につながらない学生が年度末で見受けられた。成績不良者は早期に把握できている為、対応の再検討が必要である。	・適切な対応が図られていると認められる。
	国家試験対策プログラムの継続構築	①履修が終了する重点科目は臨床工学総論にて国家試験への応用力づくりを行う。 1月に受験する全国統一模擬試験では、2年生の正答率40%以上、3年生正答率60%以上を目指す。 〈重点科目〉 1年生：解剖生理学、電気工学、情報処理工学、生体機能代行装置学（浄化） 2年生：電子工学、生体計測装置学、医用治療機器学、医用機器安全管理学 ②過去問題に触れる機会を増やす。 演習問題集の配布（4月、10月）、国家試験対策システム（CE-PassNET：フリーライン）の継続活用 定期的な確認試験や模擬試験での不合格者には何度もチャレンジさせ、問題を通して理解を深めさせる。 ③工学系問題に対する補講の継続実施 ④国語力の強化 問題の読み込みや医療に関する類似用語に慣れるトレーニング時間を設ける。	B		①例年、不合格者が多い臨床工学総論の取り組みを工夫した。 重点科目の過去問題集を配布、まずは自主学習を通して応用力づくりに着手した。 確認試験を実施し、成績不良者には補講を通して押させるべきポイントを見直しさせ、本試験に臨ませた。 ＊全国統一模擬試験 3年生正答率54.8% （2年生は出校停止期間となったため受験中止） ②過去問題の演習問題集を各学年で配布 特に3年生では模擬試験の成績不良者は繰り返しの実施を行った ③工学系の補講は継続実施した ④学内実習のレポートや発表会を通して、文章や考察の指導を強化した。	・実践力・応用力等を身に付ける指導、および報告書・レポート作成等に対する指導をもう少し高めてほしいとの要望。 →改善に向けて取り組むことを確認。 国語力の不足については、新カリキュラムでも取り入れており、かつ報告書の指導にメール等を活用し、実践が容易なところから日々指導をしている現状を確認。
⑤資格取得	ME2種実力検定試験の合格率向上	重点科目に絞った対策の継続実施。 2年生合格率50%、3年生合格率100%を目指す。	B	B	今年度も開催が危ぶまれたが、受験が再開した。 受験者数：93名（1年生15名、2年生40名、3年生38名） 合格者数：40名（1年生0名、2年生13名、3年生27名） 合格率　：43.0%（1年生0%、2年生33.0%、3年生71.1%） 前期授業や補講、模擬試験等を通してME対策を強化したが、十分な結果が出なかった。 次年度は対策を見直したい。	⑤資格取得について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
	ME1種実力検定試験へのチャレンジ	ME2種合格者には1種受験のチャレンジを促す。 Web受験となるため、受験手続きや試験当日のサポートをおこなう。	B		3年生：1名受験、1名不合格	
	B検、J検の合格率向上	①B検：2年生後期（3月）受験へ変更、前年度同様に複数教員で担当する。 臨床実習につながる臨床現場を盛り込んだﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰ教育を行う。3級合格率100%を目指す。 ②J検：2年生後期（2月）での受験、3級合格率100%を目指す。	B		オンライン講義や臨床実習による時間割変更により、受験日程が変更となった。またコロナウイルス感染や濃厚接触者の受験は春期休暇中への延長となった。＊受験者総数38名（1名長期休み、1名取得済み） ①B検　合格率95.0% 前年度と同様コマ数の対策講義が確保できなかったが、科内教員で手分けして対策講義を行った。 ＊3月受験：受験者数40名、合格者38名 ②J検　　合格率97.4% ＊3月受験：受験者数39名、合格者38名	

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
⑥教員研修・学会等	教員の授業力・指導力向上	①学会、講習会への積極的参加 ②授業研究（8月）の実施。指導・授業力・スキルの向上を目指す。 ③臨床研修の実施	A	B	①様々な学会の再開があったため、積極的に参加ができた。 5/26,27 日本臨床工学技士会（Web、木下） 6/19 日本臨床工学技士教育施設協議会 総会・研修（Web、池永） 6/20 第28回福岡県臨床工学技士会（Web、全員） 7/3,4 第43回日本呼吸療法医学会学術集会（馬場） 8/1日本臨床工学技士会告示研修説明会（Web、池永、平安、馬場、平山、木下） 8/3，4，5 福専各 新任教員研修（1回目、中村） 9/17福岡県臨床工学技士会研修セミナー（Web、池永、馬場） 9/25日本臨床工学技士教育施設協議会教員研修会（Web、池永、平安、平山、木下） 11/13第20回日本臨床工学技士会教育研究会（Web、全員） その他、福臨工セミナーへ適宜参加（Web，池永、平安、馬場、平山、木下） ②今年度は新カリキュラム検討にとりかからなかればならなかったので、実施せず。 8/6夏期教職員研修（科別）にて現行カリキュラムの精査を行った。 ③コロナウイルス感染流行により、臨床研修は検討しなかった。	⑥教員研修・学会等について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
	関係団体との協力体制強化	養成校連絡委員会を通して、福岡県臨床工学技士会との協力関係を継続する。 学生を含めた学会やイベント参加や教育講話・学内実習への講師派遣を依頼する。	B		福岡県臨床工学技士会と3養成校の学生との行事実現に向けて、意見交換をおこなった。 9/2、11/8、2/3福岡県臨床工学技士会養成校連絡委員会（Web、池永、平安）、 2/17第1回養成校連絡委員会企画 Web講演会（オンデマンド配信～2/28）、学生への周知	
⑦科の行事	病院見学 〔1年生〕	患者と透析治療に関する見学と手術室業務を始め臨床工学技士業務全般の見学を通してモチベーションアップ、職業観育成を目指す。	B	A	コロナウイルス感染流行の為、繰り返しの延期となったが、非常勤講師のご協力のもと実施できた。 内容としては透析施設の見学のみとなったが、実際の病院設備を見学し臨床実習や就職活動への意識付けができた。	・適切な対応が図られていると認められる。
	高齢者実習（健康セミナー） 〔2年生〕	アクティブラーニングを通して、疾患−治療（医療機器）−患者応対を体系的に学び、体験させる。 医療従事者の基本、マナー、高齢者の特徴等の事前講義・実習を行い、高齢者とのコミュニケーションスキルを身につける。 状況によっては、他学年や保護者をお招きしての実習内容に変更する。	A		コロナウイルス感染流行の為、前年同様、1年生対象のセミナーとして実施。また、2年生の感染状況より対面実習は行わず、1年生がオンラインで参加しての開催とした。 全般的には疾患の振り返りや学びの場となったが、一部の2年生におけるオンライン対応不備に不快な気持ちとなった1年生もいた。しっかりとオンラインに関する事前指導をすべきであった。	
	臨床実習事前懇談会 〔2・3年生〕	実習生と指導者が臨床実習に向けてしっかり打合わせができるよう準備を行う。	B		臨床実習実施に向け、対面もしくはWebによる事前懇談会を実施。 オンラインでの挨拶の仕方や聞く姿勢、コミュニケーションの取り方の事前準備不足を感じた。	
	登院式 〔2・3年生〕	臨床工学技士として第一歩を踏み出す意思表明をしっかり考えさせる機会を設ける。2学年合同となる為、実習生授与の無登壇の検討。 保護者には早くの案内発送（7月中）を行い、多くの保護者の参列を目指す。	A		感染対策をしっかり講じながら2・3年生合同で実施できた。 （短縮開催、登院生の意思表明方法の工夫等） 意思表明は式次第に記載し学生の意識が確認できて好評であった。 式典では学生の姿勢も良く厳かにできた。 教育講演は聖マリア病院 臨床工学室長 小野様にオンラインでご講演をいただき、臨床実習への心構えを学ぶ機会となった。	
	患者接遇発表会〔全学年〕	作成したプロセスレコードを利用し、2年生での発表では1年生が参加、3年生への発表では2年生が参加する。	A		臨床実習が実施できたため、プロセスレコードを通して接遇のリフレクションができた。特に2年生では看護専攻科学生からの指導成果が感じられる内容が濃いプロセスレコードが見受けられた。	
	実習発表会 〔1・2・3年生〕	開催を2日間に分け、1日目は2年生の発表（1年生聴講）、2日目は3年生の発表（2年生聴講）とし、実習指導者の出席も依頼する。 何を学べたか、感じたかを重点に置いた他学年も学べる発表内容とする。	A		臨床実習期間の延期により、日程変更となったが、一部の臨床実習指導者をお招きして実施できた。 発表は各学年の分野で代表のみのオンライン発表であったが、発表データは全員ポスター形式に変更、A3用紙に印刷して、5Fﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑに掲示することで発表の機会とした。	
	臨床実習事後懇談会	現場指導者の方も振り返りやコメントが発表できる時間を設け、今後の教育に活かす。 準備の不足がないよう十分に確認をする。	B		コロナウイルス感染流行により中止とした。	
	研修旅行 〔2・3年生〕	2年生は12月、3年生は6月に実施予定。 国内研修（関東地区もしくは関西地区）を検討する。	B		2年生は3年生へ延期。 3年生は繰り返しの日程変更と検討を行った。1月に日帰りで合格祈願を含めたバスハイクを検討したが、まん延防止期間となったため中止。 2月（節分の日）に国家試験決起会を実施した。	

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
	福岡県臨床工学会への学生発表〔2・3年生〕	6月20日(日)にWeb開催予定。学生セッションでの発表(3年生3ﾃｰﾏ)のサポートを行う。	A		予定通り6月20日(日)にWeb開催されたため、全学年、校内よりオンラインで参加した。 学生発表として3年生から3演題発表。1演題に関しては最優賞として高い評価をいただいた。 演題名 「新型コロナウィルス流行による臨床工学技士の知名度変化」病院外でのCPR実施率とBLSプロバイダーへの学生意識の関連-学生へのアンケート調査-」「コロナ禍でのマスクコミュニケーションについて」	
	博多高校看護専攻科 合同実習 〔基礎技術・1年生〕	移乗・シーツ交換・バイタル測定、その他基礎技術に関するグループワークの継続実施。 事前指導をしっかり行い、遅刻欠席や迷惑行為のない有意義な学外研修を実現する。	A		コロナウイルス感染流行により日程の変更があったが、対面実習ができた。事前学習として目標立てを行い、自己評価を含めたリフレクションのレポート内容とした。当日は遅刻欠席や気になる行為も見られず楽しい実習となった。	
	博多高校看護専攻科 合同実習 〔患者接遇 ・2年生〕	臨床現場で必要となる患者接遇に関して、臨床実習を経験した看護専攻科学生よりﾚｸﾁｬｰを受けながら、患者への声掛けや受け答えについてのスキルを学ぶ。プロセスレコードの作成方法も学ぶ。	B		コロナウイルス感染防止によりWeb(Zoom)で実施。 学校Ipadを利用し、1対1でのプロセスレコードのレクチャーやZoomのブレイクアウトルームを利用したグループワークを通して患者接遇について理解を深めた。	
	博多高校看護専攻科 研究発表会〔1・2年生〕	他学生の発表を通して、テーマ選定ポイントやプレゼン手法、抄録のまとめかたなどを学ぶ。次年度は1年生の参加も目指す。 学内における自由研究を通して、学んだ内容の理解を深めながら考察力の育成を目指す。	A		全学年での参加が実現できた。 看護学生ならではのテーマ選定や発表の聴講姿勢など学ぶことができた。 当校からも福岡県臨床工学会で優秀賞をいただいた1演題を発表する機会を頂いた。	
	博多高校看護専攻科 合同実習 〔医療機器実習・3年生〕	例年同様、3年生が主体となり説明する医用機器実習を実施。その事前練習も兼ね、5月に新1年生に対して、医療機器説明をおこなう。 説明の機会を通して医療機器の取り扱いについて理解を深める。	A		予行実習である新1年生に対して実施する医療機器実習での反省点を踏まえながら、実行委員を中心に円滑な実習ができた。	
	博多高校看護専攻科 合同学習 〔医療系模擬試験 ・ｱｾｽﾒﾝﾄ 3年生〕	医療系模擬試験では、看護学生に負けないよう、国家試験対策を通してしっかり勉強をさせる。 臨床現場で行われる看護と医療機器による治療を考えながらのアセスメント力を学び、医療で扱われる医療情報の理解を深める。	A		今年度の合同模試では他施設への訪問の練習の一環として、教員引率がなく、受験票を確認しながら、学生のみでの集合とした。 アセスメントに関するグループワークでは、当校学生の運営委員により開会。アイスブレイクで交流を深め、楽しくグループワークができた。	
⑧就職	全員内定	卒業時85%内定を目指す。 ①2年次後期からの就職オリエンテーションの実施 　余裕ある就職試験スケジュールを組ませ、繰り返しの面接指導を行い、第一希望施設内定を目指す。 ②模擬面接では卒業生の面接官参加を検討する。	B	B	卒業時内定率71.8% ①2年生年度末に1回目のオリエンテーションを実施。その後3年次でも定期的にオリエンテーションを実施した。第一希望施設内定者の増加は見込めなかったが、受験前には繰り返しの面接指導を行った。時には内定学生も教員と一緒に面接指導に入るなど、学生同士で意見交換しながら内定取得を目指した。 ②3年生後期からは定期的に現役CE(マネージャー)に面接相談やWeb面接指導を実施していただいた。 1年生・2年生とも就職オリエンテーションを実施。 過去の就職活動報告書を分析し、グループ発表を行った。先輩からのコメントを通して、2年後3年後への意識付けにつながった。	⑧就職について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑨その他	科内業務の分担	行事だけでなく日常業務内でも役割分担を行い、一教員に偏らない業務分担とする。 終礼等で業務進捗を確認し、教員全員で意識・協力しながら余裕ある準備を行う。	B	B	今年度もコロナ禍で時間割変更などスケジュールが立てにくい状況であったが、終礼やラインワークスも有効活用し、取り組みの促しや業務進捗、報告を行った。情報の共有はできているが、教員全員で取り組む意識はまだ不足を感じる。特に後期、国家試験前は時間割変更の影響もあってか教員の自主的な業務補佐は少ないように感じた。	・適切な対応が図られていると認められる。
	働き方改革の実施 変形労働時間の順守	年間業務ｽｹｼﾞｭｰﾙの作成、業務の段取りと期日を考え、改善し、期日と定時内業務終了を実行する。 新カリキュラムに向けて常勤講師もしくは実習補助教員の導入。非常勤講師の継続増加を図る。	C		何事にも期日を意識しながら取り組んだが、期日内厳守が出来ないことあった、定時内業務終了も多くの教員で達成できなかった。もっと細かな役割分担が必要であった。 後期は新カリキュラムの準備も滞り、講師増加はできなかった。	
	同窓会との連携	①実施できなかった29期生のホームカミングデーと卒後勉強の再開を実現させる。卒業生と連携を取りながら多くの卒業生が参加する魅力ある研修会開催を目指す。 ②同窓生による組織作りへの継続着手	A		①同窓会副会長や卒業生のご協力をいただきながら、29期生と30期生合同のホームカミング＆卒後勉強会が実施できた。(2022年2月5日) コロナ禍で卒業また入職してからの仕事の取り組みなどWebでのグループディスカッションを行った。 ②継続着手していきたい。	

令和3年度　学校自己評価　および学校関係者評価結果　（　歯科技工士科　）　4段階評価（　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった　）

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
①目標	入学定員 充足率100%以上 （35名） オープンキャンパス 参加者を100名以上 オープンキャンパスからの出願率60%以上	①教員担当を常に2名体制（山田・松山）で臨む。 ＊②オープンキャンパス教材の1つ以上は新規開発する。石橋は経験を活かしてオブザーバーになる。 ③講義、実習、見学、通信講座説明は、良い流れだから継続する。 ＊④スライドは歯科技工士科の価値（都会、シラバス、就職、学外活動＋企業連携、教員の連携）を新たに伝える。 ⑤スライドの新たなパターンとして学校行事の内容を検討する。 ⑥SAは、憧れを持たれやすく、面倒見の良い学生を起用。→新1年生からも同様の学生を起用したい。 ＊⑦新たに検討した入学者選考の方法（ワックス型抜き）をアピールして出願に繋げる。 ⑧高等学校ガイダンスへの積極的な参加。 ＊⑨教務主任は、佐賀県・長崎県の高等学校を訪問し、オープンキャンパスの参加者を必ず増やす。 ＊⑩入学から在学中の状況をレポートにして在校生の出身高校訪問時に資料として活用 してもらう。	B	B	オープンキャンパス・学校見学の参加者数 70名（受験対象39名）　出願者25名（64%） 就職状況の良さをアピールしたスライドに刷新した。 オープンキャンパスのミーティングの質を変えSAの活躍を促進した。 高校訪問はコロナで実践出来なかったが出前授業に参加することができた。 通信講座はワックス型抜きを選択する受験者が多かった。 〈ワックス21名（70%）　せっこう9名（30%）〉 次年度は更に総支給額と基本給の上昇や女性の職場として育児との両立が可能である点、そして4月から改正予定のテレワークが可能になる事などもアピール材料として募集に活かしたい。	・適切な対応が図られていると認められる。 →全体において難しい論点であるため、 目標の立て方と評価の在り方を検討すべき
	皆勤登校率 （クラス単位）	＊①入学生は、まず歯科技工トレーニング期間中に学生の特徴を把握し相性などを分析し孤立した学生を作らない。 ②DTレクリエーションでクラスの輪を構築し学生の居場所を作り、ドロップアウトを防ぐ。 ＊③専門知識の落ちこぼれが発生しないよう底上げ支援を行う。来たくなる学校、学びたくなる授業を実践する。 ＊④褒め指導を基本とし、話しかけやすい親身な教員を目指す。また同じ視点で学生を見守り、教員が仲良く連携する。 ⑤年間を通じて、皆勤の大切さを指導して1年間の全員皆勤を目標とする。 ⑥各学校行事などのねらいを通して学校にくる「きっかけ」を作る。 ⑦定期的な保護者連絡、終礼で情報共有、個人面談、偏りのない学生の接し方、学生をよく観察するなど基本をしっかり取組む。 ＊⑧次年度は特に、副担任が集計した出欠管理を担任と共有し学生にフィードバックする。	B		（1年）　皆勤12名（40.0%　前48.6%）　精勤3名（10.0%　前25.7%）　それ以外15名（50.0%　前17.1%） 欠席傾向の高い学生（5名）に引っ張られて、他の学生の登校が緩んでしまった。 年度末にかけて改善の兆しは見えてきたので2年次は就職を意識させたりしながら登校を 改善したい。 （2年）　皆勤9名（25.7%　前51.0%）　精勤5名（14.3%　前17.0%）　それ以外21名（60.0%　前31.0%） 1年次からの登校習慣の確立ができてなく2年次でもできなかった。個人面談や作文などを 定期的に 行えなかったので、次年度は学生を把握することや教員の想いや気持ちを言葉に 変えてクラス運営を行っていきたい。	
	退学・休学の防止 （クラス単位）	①必要に応じて保護者と密に連絡をとる。 ②入学生に対しては、1ヶ月の歯科技工トレーニングの中で、特別に手がかかる学生を発見する。 ③低学力による退学を防止するため、専任教員による授業と補習などの支援を行う。 ④ライン、ツイッターによるトラブルを軽減させるため、入学オリエンテーションやHRで注意喚起をする。 ⑤学生が抱える悩みについて気付きを持つために、徹底した学生観察を行い、些細な ことも終礼で情報共有を図る。 ⑥友達の輪による助けを大切にする。	B		（1年）　退学者1名 経済的な理由で相談に乗るも家庭の事情で退学せざるを得なかった。友達の力による 居場所の確立も活かしてクラス運営にあたり退学の防止を図った。 （2年）　退学者0名 精神的な問題から1月から長期欠席となり国家試験は受験できなかったが何とか卒業をさせることができた。	
	同窓会との連携強化	＊①クラス同窓会の開催を促し担任らが出席をする。（50周年の種まき） ②ホームカミングデーで図書の閲覧を行う。	B		訪問できないエリアの卒業生に対して、担任からメールを送信した。	
	シラバス	①授業後のシラバスの加筆・修正を適宜行い、常に見直しを行う。 ＊②SBOSの解答(学科)を作成し、学習の支援を行う。 ＊③国家試験の実施年度、問題番号をSBOSに付け加える。	B		SBOSの解答作成にまでは至っていないが7シートという国試出題基準毎のミニテストを作成した。 シラバスに前年度国家試験出題基準と問題番号の付与を行うことができた。学生はシラバスを肌身離さず利用している。 国家試験の科目分析シートを作成し、苦手分野を示して強化するべき科目を明らかにすることができた。 非常勤講師の授業終了後の到達度確認試験においては、講師によって対応がバラバラになってしまった。（上手くいったのが多数。）学生アンケートでは到達度確認試験の満足度が高いことが判った。 定期試験においては全ての教科ごとに出題範囲と出題基準を開示したので学生の欠点者を絞ることができた。（学生からは勉強がしやすいと感想あり。） 低学力者は教員のマンツーマン指導のおかげで国家試験に通すことができた。 2名の不合格が大変惜しまれる。	・適切な対応が図られていると認められる。
	学習到達度の把握	＊①学習到達度の確認のため到達度確認試験を実施する。国試を想定して四肢択一形式にできるものは修正する。 ＊②学生の到達度を把握するために到達度確認試験の成績を集計しデータ化する。	B			
	定期試験の出題範囲 ＆基準開示	①教務主任は、定期試験の出題範囲(3週間前)を開示する。 ②問題作成者は、出題基準(2週間前)を開示して学習を促す。	A			
	低学力者への対応	＊①クラスブや矯正装置など、種類が多く区別がつきにくい分野に関して写真付き一覧表を配布して理解を促す。 ＊②イメージができない補綴装置は、実物を触らせ理解させる。学内に無いものは教員で製作して準備する。 ＊③学習内容の定着を図るため、9割取れるまで帰れない方式を実施する。 ＊④教本の分からない漢字や用語は側に寄り添って理解を促す。 ＊⑤暗記の方法やコツを伝授して少しでも学習が楽しくなるように仕向ける。 ＊⑥教本の図や写真で理解できないものは専門書から理解しやすい素材を探し学生に提案する。 ＊⑦個人面談や保護者への電話連絡、時には保護者召喚を行い、落ちこぼれを無くす。	B			

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
②カリキュラム	企業連携授業の充実	①松風と連携して硬質レジンの操作法とマウスガード製作法を教育する。 ②KaVo、デジタルプロセス社、大榮歯科産業と連携をしてCAD/CAM冠の製作法を教育する。 ③愛歯と連携して審美修復について教育する。 ＊④新たにGCと連携してファイバーポストの製作法を教育する。	A	B	予定した企業連携授業は実践することができた。 新規のGCはコロナ対応のため予定はしていたが、今回は見送った。	→今後の課題や方向性について確認。 外部講師による指導など、対応について検討。 →実習について、改善前の問題点や現状について確認。 →全教員が同様に取り組めていないことなどが評価に反映されていることを確認。
	図書活動	①月間購読の雑誌をHRで紹介し、最新の歯科材料や歯科技工のトレンド情報を紹介する。 ②新しい歯科技術を理解させ就職先選定などに活かす。	B		1年5月に2回、専門図書の紹介を行った。 教務主任から月刊誌のみどころを伝え、一部の学生は連載を読んでいる。	
	教育課程編成 委員会の開催	①委員の方々に意見を求め、より良い学科運営のヒントを得る。業界から保険診療の状況や情報を入手する。	A		建設的な情報交換の場として、一段と充実し企業からの注目度が高まったと感じる。 歯科技工所と連携する教育機関として次のステップに移したい。	
	上司や先輩に 可愛がられる習慣	〈5S〉（整理・整頓）週末に引き出しの中とロッカーの荷物を整理整頓する時間を設ける。 （清　掃）掃除終了後、学生に報告させ教員が立ち会い点検する。 （清　潔）白衣・上着の洗濯、手洗い・うがいをHRで注意喚起する。 （　躾　）模範行動の学生をHRで褒める。振り返りシートで学生の認識を確認する。 〈笑顔・あいさつ・良い返事〉 毎日の清掃活動やHRで話のネタとして取り上げる。	B		インターンシップお礼訪問で学生の態度について他校と比較して博多メディカル専門学校の学生が評価して頂けているのは感じることができた。しかし、笑顔・挨拶・良い返事などは今一つでコロナ禍でマスク着用の難しさも感じた。 ただ、それを跳ね返すように次年度は取り組んでいきたい。	
	トレーニングの習慣化	①インビクタス模型の週末課題。 ②CAD/CAMを用いた比較検討の導入。 ＊③実習を、説明➔実習➔評価➔やり直しの形式に変更する。	B		全技協実技評価試験は35名受験35名合格(100%) 授業のフィードバックを確保したため実技に対する取り組み姿勢が大きく変化したことを確認できた。 インビクタス模型トレーニングは一定の時期には練習しているものの年間を通じた習慣化には至っていない。 学生をその気にさせて火を付ける方法については、話術を含めた声のかけ方等の誘導方法を次年度は徹底したい。	
	全技協実技評価 試験の全員合格	①実習の能力が劣る学生をいち早く抽出し放課後に再度指導、練習する時間を設定する。 ②実習が劣る理由として、知識の理解不足か、手の動かし方が悪いのかを判別して、それぞれ対応する。 ＊③学生の到達レベルをお手本模型に表し、拘り過ぎや雑な作品のバラツキを減らす。	B			
③企業見学・病院見学・インターンシップ	企業見学	①学内で培った態度・習慣が企業内でも実践できるかをテーマにして訪問する。 ②歯科技工所の規模や作業風景および歯科技工士の働きぶりを見学する。 ③見学先の卒業生の先輩と交流し意欲や向上心を高める。 ④就職先のイメージを獲得し就業意識を養成する。	A	A	コロナ禍ではあったが、企業や大学の協力により何とか実施することができた。 発表会では学校行事が少ない中、学生の個性をうかがい知る貴重なイベントになった。 発表会の来校者も前年度以上に参加があり本校の教育が注目されていることも確認することができた。 関東のラボが、ホテル代交通費を出してまで参加して欲しいという現象も起こり、全国的な歯科技工士不足を肌で感じることになった。	・適切な対応が図られていると認められる。
	九大病院見学	①見学目的と体力育成の重要性を行事前に指導してクラス目標に反映し、貧血転倒を無くす。 ②大学病院見学を通じて、歯科技工が医療であることを学ぶ。 ③見学後の発表会を開催し、人前に立って話す機会を通じてコミュニケーションスキルを獲得する。	B			
	インターンシップ	①学内で培った態度・習慣を活かし2日間、歯科技工士の働き方を学ぶ。 ②歯科技工所の規模や作業内容を確認し、学生自身の就職イメージを獲得。就職先選定のきっかけを得る。 ③笑顔・あいさつ・良い返事の実践具合を学内に戻って自己判断を行う。卒業までに足りない習慣が無いか確認。 ④見学後の発表会を通じて、自分の考えを相手に説明するためのコミュニケーションスキルを学ぶ。	A			
④国家試験	国家試験 合格100%を実現する 国家試験対策 プログラムの構築 学生全員が安定的に 合格レベルに達する 学説試験・実技試験 の対策	＊①各ユニット開始時に国家試験との関連を説明する。 （場合によっては問題をみせる） ＊②授業と国家試験出題基準を必ずリンクさせる。 ③授業終了後に到達度確認試験を行い学習到達度を把握する。 ④シラバスのSBOSをノートにまとめ、自己学習を促す。ユニット終了時にノートを提出させ学習定着を確認する。 ⑤非常勤講師の授業に用いる教材（スライドやプリント）を専任教員が整備する。 ⑥実技試験対策として、週末課題を週1本製作し、歯の造形トレーニング行う。 ⑦国家試験対策模擬試験は20回実施する。 ＊⑧1年次の履修科目に関しては、2年4月から特別活動①の中で早期模擬試験を実施する。 ⑨試験終了後は、過去の学生と順位を調べ学力状況を把握し低学力者には対応を図る。 ＊⑩フリーラインシステムは、月に5～10時間の時間を取り、入力や運用を行う。	B	B	数値目標や具体案を掲げ業務週報に掲載まで行ったが、実践状況を確認できず 不合格者を2名出してしまった。 次年度は、具体案を改善して教員が主体的に取り組めるように改善する。 (1)出題基準と模試の傾向分析　(2)シラバスに出題基準明記　(3)授業到達度確認試験　(4)7シート試験による学力の底上げ　(5)彫刻指導の授業研究 (1)～(5)に関しては成果を上げることができたので次年度も継続して安定的に合格レベルに到達する国家試験対策プログラムを構築したい。 [1年 再試験対象者] 前年度より再試験の対象者数を減少させることができた。 （今年度）8/30名が欠点23個　1人あたり0.76科目 （前年度）12/37名が欠点32個　1人あたり0.86科目 [2年 再試験対象者] 前年度より再試験の対象者数が微増した。 （今年度）9/35名が欠点19個　1人あたり0.54科目	・適切な対応が図られていると認められる。
⑤資格取得	ジョブパス検定3級	①授業と本試験の期間を空けない。 ②過去問を解く時間を確保して合格率アップにつなげる。	A	A	ジョブパス結果：35名中31名合格(88.5%)　前年度：35名中22名合格(62.9%) 過去問を4回実施し、授業と本試の間隔を開けずに本試験に臨んだ。	・適切な対応が図られていると認められる。

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
⑥教員研修・学会等	教員スキルの向上	①前年度と同様に授業アンケートを実施する。 ＊②「これからの教員の役割とは？」に記載される教員がとるべき行動を日々挑戦して終礼で科内共有を図る。	B	B	公開授業は行わなかったが、 ユニット5に関しては矢野・澤田で企画実践を行った。 ユニット11では山田・石橋で伝え方や評価法について共有した。 ユニット6では山田が監修し澤田が授業を担当した。 国家試験実技対策では松山と山田で細分化評価を互いに行い、学生への伝達や評価ポイントを共有した。 また後述のデンタヨリでは遠隔授業のフィードバックを得て講義やオンラインでの受講者からの感想を得ることができた。 7つの習慣を歯科技工士科に取り入れ業務のプライオリティ等について共通理解をするきっかけとなった。次年度も継続したい。	・適切な対応が図られていると認められる。
	インストラクショナル授業	＊①「インストラクションの鉄則チェックリスト」に記載されることを実践して、教員同士で気づきを得る。 ＊②教員同士で授業見学を行い、OJTをやってみる。特に教務主任には年1回は授業見学をさせOJTする。	B			
	アクティブラーニングの推進	＊①教室での表情づくり。声の強弱や抑揚。 ＊②オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンの研究。 ③一方通行型の講義においてスクール形式の着席からグループ形式の着席へと変えてみる。 ＊④アクティブラーニングのサイトを用いて、2カ月に一度、科内研修を行う。	B			
	実習中の安全意識啓発	①実習前に過去の事例を紹介。ゴーグルとマスクの装着を必ず確認したうえで実習を開始する。 ②火傷や怪我が起りそうな実習は複数体制で授業する。 ＊③安全マニュアルの改訂を行う。	A			
	＊職業実践専門課程 臨床研修	①澤田先生が、オーケイラボセンターで口腔顎顔面育成に関する臨床研修を行う。 ②他の教員もラボ見学と卒業生訪問を兼ねて、歯科技工所の訪問を行う。	B		日本歯科技工学会第42回大会で誌上開催ではあったが歯科技工士教育の大綱化のシンポジストとして山田が選ばれる学校を目指してという題名で発表した。 また日本医用歯科機器学会の第31回学術大会の大会長を務めた。 年度末には医科歯科技研の藤原氏から特別講演をして頂き、CAD原理やエッジロスについてのデジタル歯科の研修を行うことができた。	
	全技協主催の各種研修会 福専各主催の各種研修会	①開催があれば澤田先生が全技協研修会を受講して実技評価試験委員の資格を得る。	B			
	校内外部研修会の誘致と参加	コロナの状況にもよるが、予定では、河原セミナーおよび技工コースを開催する。 前年度同様、校内外部研修会で学校PRを行う。研修毎にリーフを配布し、業界からの学生募集につなげる。 学生や教員の聴講をお願いし、専門的な知識の修得につとめる。	A		河原セミナーを12月と2月に開催した。教員および学生の研鑽もできた。	
	日本医用歯科機器学会の開催	＊8月7日に日本歯科医用機器学会の会場提供および実行委員長として学会の開催を行う。できたら教員も症例発表を行う。	A		オンライン開催。大会長：山田　特別講演：パブロ リベロス 無事開催することができた。	
⑦科の行事	研修旅行	①共に学んだ仲間と時間を分かち合う。 ②関東方面の歯科技工所を研修し九州にはない先進的な専門知識を学ぶ。 ③スタディーツアーを通じて仲間と協力をして目的地に到着し、訪問に必要なコミュニケーションスキルを実践。 ④学生自身の将来像を意識付けし就業意識を養う。	B	B	中止したため、学生の連帯感に良い影響を与えることができなかった。 先進的な知識やスタディツアーは行えなかったが、学生の希望した就職先はかなり高いレベルの企業に決定することができたので救われた。	・適切な対応が図られていると認められる。
	DTレクリエーション	①クラス内の交流、学年を超えた交流、学内では得られない経験、目標を確認するために実施。 ②目標は定期的に見直し修正作業をすることに意味を持たせる。	B		DTレクリエーションは舞鶴公園で行った。屋外でドッジボールや他己紹介、○×クイズ、「はぁ～」というゲームを行った。 上級生と下級生がマスクをしながらでも交流することができた。 コロナ禍で開催できない部分が学生アンケートの満足度に如実に表れた。 九州デンタルショーはコロナで中止。 文化祭は作品展示のみ開催した。 保護者や卒業生の来校が多数あり有難かったが、やはりいち早くコロナが収束して元通りの学校行事を開催したいと痛感した。	
	九州デンタルショー	①歯科のイベントに参加して、歯科界の規模を体感する。 ②展示ブースをまわり、最新の歯科技工機器・材料や技術をリサーチする。	B			
	ひまわり祭	①学習成果の披露として、製作した実習物を展示する。 ②他の学生の作品を見ることで、自分の技術を確認する。 ③他科との交流を通じて、博多メディカル専門学校生としての帰属意識を持たせる。 ④係を通じて、他人との関りを学び協働することを勉強する。	B			
	釜山カトリック大学との姉妹校交流	次年度は、来校年度であるがコロナの状況で様子見。	B		クリスマスカードが届いた程度の交流。	
	DENTAYORIプロジェクト インドネシア dopangの教育	＊①GoogleCLASSRoomを用いた遠隔授業を通じて、インドネシアの歯科技工士に歯の形態に関する教育を行う。 ＊②遠隔授業のノウハウを学び、学内授業に応用検討する。 ＊③将来的な通信制教育が可能かどうか、このプロジェクトを通じて検討する。	A		モジュール2～4を担当。毎週木曜日に授業。合計24回実施した。 ・パワーポイントとGoogleスライドを使い分けた。 ・視覚素材やアニメーション等、スライド作成のスキルが大幅に上がった。 ・ZOOMのミニテストを使用した。 ・ライブ授業から反転授業まで色んなバリエーションの授業を試した。 ・次年度はGoogleアカウントを本校学生に分けGoogleクラスルームを試みる。	
⑧就職	卒業時までに 希望進路100%達成 個性に応じた就職指導 求められる態度・習慣のリサーチ 企業との情報共有	＊①1年3月大企業見学➔2年九大病院見学➔インターンシップ➔研修旅行➔会社説明会➔就職活動を一連の流れとする。 ＊②就職相談・履歴書添削・企業連絡・書類準備・面接指導・実技対策を5名で分担する。担任の負担を軽減する。 ③キャリアデザインの講義を行う。 ＊④株式会社愛歯や和田精密歯研株式会社の新入社員研修の内容をリサーチして技工士科の教育内容に反映させる。 ⑤インターンシップ先に就職する事例が多いことから、インターンシップの事前連絡・事後連絡を密にする。	A	A	今年度は12月までに全員の進路を確定させることができた。 インターンシップ先に就職した学生は29名(82.8%)と高い数字になった。 就活業務を5人で分担して3年目であったが非常に良い成果を上げているので引き続き、この方法を継続する。 就職先の内訳 ラボ33名　進学1名　辞退1名 福岡県19名　長崎県4名　熊本県1名　東京都3名　千葉県4名　神奈川県1名 兵庫県2名　大阪府1名	⑧就職について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑨その他	ライフワーク バランスの推進	シラバス活用型学習などを活かし、業務成果を維持しつつ変形労働時間制を遵守する。 時差出勤・休日出勤の対応は、今年度並みを目標にする。	B	B	振替休日の残り日数　令和3年度末現在 山田(8.0日)矢野(0日)澤田(0日)石橋(2.5日)松山(3.0日) 有休休暇の取得日数　令和3年度中 山田(5.0日)矢野(5.3日)澤田(7.4日)石橋(5.8日)松山(2.1日) 分散登校や時差登校の対応のため、前年度程の休暇は取得できていない場合があった。	・適切な対応が図られていると認められる。 →業務内容や取組の現状、および今後の改善に向けての予測等について確認。

令和3年度　学校自己評価　および学校関係者評価結果　（　歯科衛生士科　）　4段階評価（　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D:達成できなかった　）

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
①目標	・遅刻、欠席者の減少。	8:45に各教室で着席しておくことへ向けた働きかけする。 授業開始までの前準備の大切さを知ることや社会人としてのマナーの習得として取り組む。 遅刻、欠席者への指導については、補習レポート課題を与えるとともに、教員間で共有（ラインワークスを活用）し、適宜必要な声掛けを行っていく。特に遅刻が多い学生には面談を行い生活習慣の見直しを図るよう促す。 教室に精勤・皆勤表を掲示したり、個人の出席状況をポートフォリオの年間記録シートに記入し、振り返りを行う。 それらの取り組みにより各学年とも月平均の遅刻、欠席者の15%以下を目指す。	B	B	【遅刻・欠席年間月平均】※（　）内は昨年度平均 1年生 39.4%（26.2%）、2年生 56.4%（10%）、3年生 37%（26.4%） HR遅刻：1年生 6.5%（5.1%）、2年生 7.6%（3.0%）、3年生 8.8%（7.3%） 皆勤：1年生 32名/54名中　2年生 15名/43名中　3年生 33名/49名中 精勤：1年生 13名/54名中　2年生　8名/43名中　3年生　8名/49名中 ・各学年に精神的不安定な学生がいたり、退学前に長期欠席や遅刻が多かった学生がおり、遅刻、欠席率が例年より多かった。 ・基本的生活習慣が身についていない学生においては、その都度面談等を行ったが改善できない者も数人いた。 【取り組み】 1年生 ：月ごとに個人の出席状況を教室に掲示し、ポートフォリオへの記入を行うとともに、振り返りと今後の対策を考える時間を設け意識付けを行った。 ：遅刻や欠席の多い学生には個別に面談を実施し指導を行った。 2年生 ：月ごとに個人の出席状況を教室に掲示し、精勤・皆勤への意識付けを行った。 ：面談の際にポートフォリオに記入し、出席状況が就職活動へつながることの意識付けを行った。 3年生 ：出席状況が就職活動する際に関係していることを伝え、精勤・皆勤への意識付を行った。 ：精神疾患を患っている学生は他の学生よりも出席状況が良くなかったので、全体に周知する際は言葉を選んで伝えた。また、掲示物で出席状況を周知する場合、精神疾患の学生にはプレッシャーを与えるので、個別に指導することが多かった。	・適切な対応が図られていると認められる。 →最終学年(3年生)における精神的不安定な学生について入学前・入学時から現在に至るまでの状況を確認。
	・国家試験100%合格	1年次に科目別対策(主に主要三科)と2年生との合同模擬試験実施、2年次に過去問題による模擬試験を実施し、教員による解説や自己でのやり直しを行い受験勉強の取り組み方を早期に身に付けさせる。3年次は4月、7月に模擬試験を実施し、早期に各自の学力を知らせると共に成績不振者には4～6月の臨床実習期間中に補講を行う。7月の臨地実習中に対策を計画する。12月から専任教員による国家試験対策を開始し、早期に歯科衛生士の主要3科で点数が取れるようにする。1月、2月と苦手教科の対策や成績不振者への対応も個別指導を組入れ、全員合格に繋げる。	B		第31回歯科衛生士国家試験 合格者47名/48名受験（合格率97.9%・全国平均95.6%） ・臨地臨床実習と並行して対策講義を行うことで、早期に受験生としての自覚を持たせるようにした。 ・成績不振の学生にはその都度面談を行い苦手科目の分析をし、教員と一緒に勉強計画を決めて取り組んだ。 ・学生1人1人の日めくりカレンダーや太宰府天満宮に全員で祈願に行くことによってクラス全員で合格しようという気持ちが高まった。 ・全員が無事に国家試験を受験できるよう試験10日前からは登校せずにリモートで出席管理をしながら、自己学習を進めさせ、全教員で質問に応じるようにした。 ★各学年における取り組みは④に記載	
	・全員就職	1.2年次から就職活動に対して意識付けするために、就活に向けたアンケート等を実施し、自分に合った職場を早い段階から考えるよう取り組む。 臨床実習終了後のアンケート調査や面談で自己分析をする時間を設ける。また、医院・メーカー・病院等で勤務されている方から直接話を聞く時間を作り、早期に業界についての理解を深めさせ、自己分析の結果と各業界が求める共通点を見つけさせる。 対策講義や補講により国家試験合格ラインの早期到達を目指し、早期より活動が開始できるようにする。また、見学後の聞き取りを十分に行い学生の性格等をふまえた就職活動の支援を行う。	B		【求人件数・求人者数】 ※（　）内は昨年度実績 3/16現在：650件/1154名　(R3.3/16：542件/942名) 【就職・進学内定者】46名/49名　福岡医療短期大学専攻科へ進学2名 ・早期（夏期休業中）から活動を開始。 ・就職決定者一覧を教室に掲示することで、クラス全体の就職活動への意識を高めた。 ・医院による就職説明会を多く取り入れることで、医院の特徴を知ったうえでの就職ができ、就職活動への意識が高まった。 ・前年度から臨床実習施設（21名）や知っている所への就職を決める傾向がある。 ★就職に向けての各学年の取り組みは⑧に記載	
	・退学者の減少	日々の挨拶運動や日常の関わりの中で学生一人一人の変化を見逃さず、情報は教員全員で共有（終礼・教務会議での情報共有）し対応にあたる。 保護者との連携も密に取り長期欠席や退学を防ぐ。 定期的な面談(1年生は4～5月頃と各期末試験の成績面談、2,3年生は各期末試験の成績面談）以外にも、学習や私的な問題を抱える学生に適宜面談や補講を実施し早期の問題解決を図り退学の防止に努める。また、ポートフォリオを活用し一人一人の目標達成をサポートする。 その他 先輩・後輩のつながりをより強くし、先輩が後輩のモチベーションを高めるスタイルが更に定着するよう取り組んでいく。	B		【退学者数】 1年生：4名（2名：進路変更、1名：精神不安定・体調不良、1名：学業不振）、3年生：1名（精神的不調） ・今年度は精神的に不安定な学生が多く見られた。特に3年次に精神的不調を訴えることは例年には見られず、保護者と連携を取りながら実習等進めていったが、1名が退学となった。 ・心理カウンセラー（武部先生）の面談によって、専門の先生からのご意見を取り入れながらサポートした。（1年生：2回、2年生：3回、3年生：2回） 【取り組み】 1年生 ：入学1ヶ月後や各期末試験後の個人面談や問題を抱える学生に対して適宜面談を行った。 ：保護者とも密に連絡をとり対応した。 2年生 ：前期・後期に個人面談を実施したが、行事や試験前等に精神的に不安低になる学生が多く、保護者との連携や武部先生の面談等を導入しながらサポートを行った。 ：学業や学校生活への意欲の低い学生もいたが、資格取得という目的を明確にし全員進級することができた。 ：朝礼や教務会議での口頭での報告に加え、LINEワークスの活用により教員全員での情報共有を密に行うことができた。 3年生 ：心療内科に通院している学生が実習に行けなくなることが多かったため保護者と頻繁に連絡をとり、実習先の先生方の協力のもと退学を防ぐように取り組んだ。 ：個人面談を行い、問題が起きた場合は早期解決し退学がないように努めた。	

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
	・募集対策内容の充実	歯科衛生士の魅力を今の高校生にどう伝えるべきか精査し、オープンキャンパスや出前授業の内容を検討する。 SAと教員が一体となって本校の魅力的部分をアピールし他校との差別化を図る。また、教員は保護者へ積極的に対応し安心できる教育体制であることを知っていただき、それにより本人保護者双方の意志からの出願に繋げる。 オープンキャンパスからの出願者率60%を目標とし、その働きかけから指定校、推薦A、推薦Bでの定員80%、参加者数120名以上を目指すことを常に目標する。出前授業等でもオープンキャンパス参加や出願に繋がるように興味を引く取り組みを行い、定員100%を目指す。	B		【オープンキャンパスからの出願率】※（　）内は昨年度 41%（55%） 【指定校・推薦A・B入試からの定員確保】※（　）内は昨年度 53%（62%） ・定員充足はしたが、オープンキャンパスからの出願率と推薦入試からの定員確保の目標値には達することができなかったため、次年度強化の必要がある。 ・今年度もSA、教員一丸となってオープンキャンパスに臨み、150名（154名）と昨年同様の参加があった ・学校紹介動画、学校魅力動画の内容を改変した。 ・マスクの着用方法や手洗い等、時事的で興味を引く内容のものを導入した。 ・参加人数の傾向に合わせて内容が重ならない様工夫した。 ・Zoom配信の際は教員3名体制で、Zoom参加者にもSA・教員で丁寧に対応した。 ・LINEワークスを使用してオープンキャンパスの内容や状況、体験者について教員間で共有することで次に繋げた。	
②カリキュラム	・シラバスの充実とカリキュラムマップの充実	主要三科シラバスのGIO(一般目標)、SBOs(行動目標）の振り返りを行い、改善を図り、カリキュラムマップと整合性の取れたものにする。	A	B	・昨年同様、カリキュラムマップにより、現在地点の確認と到達点の確認、授業目的、学習成果の確認できるようにした。 ・専任教員担当科目ではGIO(一般目標)、SBOs(行動目標）を記載することで、各授業毎の学習成果の向上を図った。 ・科の研修で作成した安全管理ガイドラインを学生へ配布し、安全に関する知識と安全に配慮した実習に取り組んだ。 ・主要3科目の反復学習（予習ノート）においてシラバスを活用し、常にGIO(一般目標)、SBOs(行動目標）を意識した授業展開を行った。	・適切な対応が図られていると認められる。
	・アクティブラーニングを活用した授業の導入	学生の能動的な学びを促し、歯科衛生士としてまた、社会人としての汎用的能力の育成を図る。	A		・授業や学内実習、臨地実習事前授業で実施。雑談や学びにばらつきがでないように適宜注意を促し、学生一人一人が主体的かつ協動的に学ぶように心がけた。 ・受け身の学習ではないため、個々が何をすべきか把握できているため、実習へ取り組む姿勢や問題発生時の臨機応変な対応も十分できたと感じた。今後も知識伝達の講義型授業と上手くバランスを取りながら学生主体の学習活動の支援を行う。 ・受け身になりがちなリモート授業中もグループワークによる演習を積極的に取り入れ、学生の能動的な学びの機会を作った。（zoomのブレイクアウトルームの活用）	
	・学習目標、到達目標の明確化した授業の設計(インストラクショナルデザイン)の再考	シラバスに記載したGIO(一般目標)、SBOs(行動目標）を十分に活用し授業毎に学生に認識させ、1年生は基礎、2年次は基礎の応用、3年次は応用展開と成長できる内容であるか、臨床の場を意識した内容であるか等考察しながらこれまで以上に学習効果のある授業を展開する。	B		・授業展開に必要な授業案を毎時間ごとに全教員作成している。 ・GIOに到達するためのSBOsを授業資料に明記し、授業開始時に確認し学習効果の向上を図った。 ・授業終了時には目標到達の評価を行い理解度の確認をし、学習効果の把握を行っている。 ・主要3科目においてはGIO、SBOsを活用し、授業前までに予習することを習慣化した。	
	・授業目標に到達できない学生へのフォロー	空き時間を利用し補講を実施できるように計画し講義、実習の理解や技術習得不足による成績不振やそれに伴う目的意識の低下を防ぐ。	B		・成績不振者や技術習得不足の学生に対して、放課後やOH、補習の時間を利用し、1人1人の理解度に合わせた指導を行った。 ・各学年において、学生からの申し出や授業担当や担任、副担任が声掛けし、実技試験前後や必要時に補習を実施した。特に、OSCE事前事後の実技指導、定期試験、再試験前後は成績不振者の対応を行った。 ・実技面で不安な学生には放課後に少人数で練習を行った。	
	・専任教員授業アンケートの実施	学生の学習効果の向上と授業改善、それによる学生の学校満足度の向上のための資料としての活用を検討する。	B		・全ての科目でのアンケートを実施。臨地・臨床実習終了後も実施した。学習効果の向上と授業改善のための指標として活用。	→目標設定の在り方、および評価するポイントについて確認。 また、非常勤講師に対しても実施していることを確認。] 次年度は目標設定の見直しを実施する。
	・人格教育と専門教育の充実	女性として、また医療専門職として幅広い見識や目的意識向上に繋がる、研修等を導入する。	A		1年生 ・R3.7.13（火）音波ブラシセミナー（GC） ・R4.11.5（金）笑顔の講話（すえながひとみ先生） ・R3.11.8（月）接遇OSCE（事前講義180分×2回） ・R4.3.14（月）ライフプランセミナー（就職・結婚・出産をふまえ、医療専門職として、女性としての人生設計を考える内容） ・R4.3.16（水）アース製薬セミナー（Web） ・R4.3.17（木）サンスターセミナー 2年生 ・R3.10.5（火）感染セミナー（モリタ） ・R3.10.7（木）セルフケア関連セミナー（ライオン・モリタ） ・R3.11.1（月）バキュームセミナー（モリタ） ・R3.2.10（木）シャープニングセミナー（ヒューフレディー）（Web） ・R4.3.4（金）笑顔の講話（すえながひとみ先生） ・R4.3.10（木）接遇OSCE（事前講義180分×2回） 3年生 ・R3.9.2（木）花育セミナー ・R3.10.27（水）予防セミナー（歯科医師） ・R3.11.1（月）日帰り研修（テーブルマナー講習） ・R3.11.15(月)、17（水）　災害支援セミナー(DH) 各学年補習の時間等を利用し、セミナーを実施した。 その他　ポートフォリオの活用をした。	

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
	・「教育課程編成委員会」との連携	委員の方々からのご意見と教育内容を検討し、現状をふまえた専門性の高い教育の実施を目指す。臨地臨床実習においては委員の方々から意見をいただき実習先の拡充を図る。専門的口腔のケアについては、委員の方々から現場の状況や歯科衛生士の役割など臨床現場の意見をいただき内容の充実を図る。	B		・新たな取り組みを行った際、臨床に即したご意見を頂き、次年度の内容に加えるようにした。 ・次年度の時間割作成に関して、ご意見を頂き講義時間数等の調整を行うことができた。 令和3年4月14日(水)日本口腔ケア学会認定資格試験5級試験実施 48名受験全員合格。 ・体調不良で欠席者が2名いたが、春期休業中より問題集を活用した自己学習の取り組みを強化し、受験者全員の合格につながった。	
③臨床実習・病院見学・インターンシップ	・臨床実習における知識・技術の向上	OSCEの合格で自信を付けて臨ませる。2年生は1回目の評価を基に、2回目の実習評価が向上するようフィードバックを実施する。3年生は歯科衛生業務において歯科衛生過程を活用する力を付ける。1年生は臨床実習の意味等の事前説明や医療現場での守秘義務についてなどの臨床実習対策実習の時間を増やし、事故防止や実習の充実を図る。	B	B	・新型コロナウイルス感染症拡大の中ではあったが、実習を行うことができた。 ・昨年度を参考に、後期歯科診療所臨床実習の期間を3年生の実習を9月開始とし、その後2年生、1年生、2年生の実習期間を設けた。 →2年生は事前の実技試験（OSCE）に少し余裕を持って臨むことができた。 ・3年生前期臨床実習を九州大学病院（5週間）、福大病院orこども病院（1週間）、矯正or小児歯科（3週間）に変更（例年は九州大学病院9週間）。 →今まで以上に有意義な実習が行えた。（矯正歯科に興味を持つ学生も多く、就職にもつながった。） 歯科診療所臨床実習 【実習評価平均】 1年生：43.2点（43点）・2年生：86.2点（79.1点） ・3年生：90.6点（88.2点） 【器物破損】 3年生：3件…診療補助中にバキュームホース破損に気付いた。3Wayシリンジ落下（2件）。 【アクシデント】 なし 【インシデント】 なし ※（ ）内の数字は昨年度の点数 1年生 ：過去の臨床実習における反省点を報告し、臨床実習事前講義でヒヤリハットの事例検討、歯科治療の流れと使用器材の復習試験などを実施し、初めての実習に向けた準備を行った。 ：専任教員と接遇講師による事前講義で、挨拶や報告の仕方などについてロールプレイングを行い、基本姿勢を身に付ける取り組みを行った。（接遇OSCEの実施） 2年生 ：臨床実習事前講義で2年次の実習生としての心構えや医療安全について、過去の事例を基にグループワークを行い、アクシデント・インシデントの報告0に繋がった。 ：事例や課題を反省会で共有し、2回目の実習迄に放課後の実技補習を行った。 3年生 ：4月の九州大学病院実習の前には、事前指導として器具器材に関する講義や治療の流れに関する講義や試験を行った。 ：一般歯科とは異なり専門の科での実習が増えるため、科ごとにレポートを作成し知識を深めた。	・適切な対応が図られていると認められる。
	・事前実技試験（OSCE）の充実	臨床実習後の学生評価をもとに内容の検討を行い、臨床実習で実践できる内容に近づける。学生は合格することで自信を持ち落ち着いて実習に臨み、知識や技術の向上に繋げる。また、学生全体の知識や技術の差を小さくし評価のばらつきや事故防止を目指す。 2年次OSCEに加え、1年次では接遇OSCEを実施し実習生としての基本姿勢を身に付ける。	A		・例年通り臨床実習で求められる技術や、臨床現場の処置を想定した問題へ対応でき学生が自信を持って実習に臨むことができる内容かを検討し実施した ・5つのステーションすべて不合格の者はいなかったが、14名の不合格者がいたが、翌日の各ステーションの試験官によるフィードバック後、補講を行い再試験で全員合格することができた。 ・新たに1年生の臨床実習前に接遇OSCEを実施 →挨拶や報告の仕方や正しい電話対応について1人ずつ確認する機会を設けた。基本姿勢を身につけるとともに学生の臨床実習に向けた意識づけにもなり、実習先からの評価にも繋がった。 ・2年生も3月に接遇OSCEを実施 →患者誘導等より実践的な内容を導入し、3年次の実習に対する意識付けを行った。	
	・国家試験対策講義、補講、補習の取り組み	非常勤講師の対策講義と連携した専任教員による補講の強化。冬期休業を利用した効果的な自己学習の取り組みの働きかけを行う。放課後補習は数名体制で行う。また、国家試験再受験者の対応については、対策講義や模擬試験等の情報を提供しフォロー体制を万全にする。	B		・早期（7月）から国家試験対策講義を実施した。 ・専任教員の担当科目（基礎・臨床・主要3科目）を明確にし、質問等にしやすい状況を作った。 ・模擬試験後や補講終了後も決められた時間は全員で自己学習を行い、その後を模擬試験の点数により自己学習の時間として取り組ませた。 ・補講やリモート学習の際は専任教員で担当を決め、放課後は2名体制で対応した。 ・保護者への連絡も適宜行い、家庭での学習状況を把握しフォローした。 ・昨年の不合格者のうち希望者には対策講義を聴講させた。模擬試験も一緒に受けたことで緊張感を持つことができたようだった。	④国家試験について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
	・個人データの分析による科目別対策の実施	現在活用している業者ソフトによるマークシート採点で個人データの分析を行い苦手科目の強化を図る。	B		・模試実施後、個人データ分析表を配布し苦手科目の強化を行った。 ・業者ソフトによる個人データの分析を行い、苦手科目を把握し強化し必要に応じて課題を与えた。	

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
④国試対策	・国家試験合格に向けたシステム作りの構築	1年次から国家試験を意識したシステムを構築する。 1年次：動機付け的な試験や授業が終了した科目ごとに定期的に模擬試験を実施すると共に教員による補講 2年次：基礎科目の反復学習を含めた模擬試験と教員による補講 3年次：業者による全国模擬試験、十数回実施する校内模擬試験、早期から専任教員による対策講義の実施、非常勤講師による専門的な対策講義の実施、教員による補講 またこれまでのデーターから、国家試験対策時に不安な学生は1年次の成績不振者でもあることから、早めの対策を検討する。	B	B	前年度の反省を生かし、各学年における国家試験対策を検討し、実施した。 1年次 ：反復学習の習慣化のために主要3教科の予習ノート導入。 ：7月に前期履修科目、3月に後期履修科目の模擬試験（計4回）を実施し、早期から国家試験受験への意識付けを行った。 →例年3月に実施している第1回目の校内模擬試験において、今年度の1年生（43期）の平均点（102点）が例年より良い傾向にあったため効果が感じられた。 （42期：91.7点、41期：未実施、40期：90.7点、39期：95.7点） 2年次 ：反復学習の習慣化のために主要3教科の予習ノート導入。 ：校内模擬試験（5回）と9月に前期履修科目、2月に後期履修科目の模擬試験（計2回）を実施し国家試験受験への意識付けを行った。 3年次 ：4月に模擬試験を実施し、結果を基に6班編成し国家試験対策に活用。 ：臨床実習期間も成績不振の学生・自主的に勉強したい学生は日にちを決めて放課後補習を実施。 ：7月の幼稚園臨地実習期間の放課後に歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の対策講義を実施。 ：学生が苦手とする基礎科目強化のために、専任教員で基礎科目を分担し、8～11月に班ごとに対策を実施。 ：例年1月以降に開始していた専任教員の対策講義を12月上旬から開始することで、早期に主要3教科の成績アップにつなげた。	
⑤資格取得	・秘書検定3級全員合格、2級合格率UP	3級合格：1年次100%、2級合格：80%台を目指す。	B	B	昨年度未実施の為、1，2年生ともに3級を受験。（3級取得者は2級受験） 【合格率】 1年：2級100%（2名合格/2名受験）、3級71.6%（38名合格/53名受験） 2年：2級100%（2名合格/2名受験）、3級75.6%（31名合格/41名受験） 全体：2級100%（全国54.6%）3級73.4%（全国70.2%） （一昨年：2級52%、3級92.3%）	⑤資格取得について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑥教員研修・学会等	・該当研修への積極的参加	職業実践専門課程の認定校であることを意識し、指導者としてのスキルアップを図る。専任教員研修や業界団体の研修、臨床研修へ積極的に参加し、最新の情報や技術の習得に心がける。	A	B	・8/3（火）～8/5（木）（一社）職業教育・キャリア教育財団主催令和3年度新任教員研修：本田 ・8/16（月）～8/20（金）歯科衛生士専任教員講習会Ⅰ（オンライン開催）：本田 ・8/23（月）～8/27（金）歯科衛生士専任教員講習会Ⅲ（オンライン開催）：牟田 ・12/17(金）～12/24(金）第12回日本歯科衛生士教育学会総会・学術大会・専任教員講習会Ⅵ(オンデマンド配信)：植木、藤木、加藤	⑥教員研修・学会等について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
	・ファシリテーションスキルの習得	アクティブラーニングを実施する上で不可欠なファシリテーションスキルの習得に積極的に取り組み効果的な授業展開をする。	B		まだまだであるため、継続課題。	
⑦科の行事	・レクリエーションによる交流	クラス内交流、学年を超えた交流を図りクラス・科の結束を図り、協調性や連帯感を育む。	B	A	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い3月に延期。当初予定していた粕屋ドームをキャンセルし、3/15（火）に学内外で『ウォークラリークロスワードゲーム』を実施。最初の目的地を東公園の亀山上皇銅像前としたことで避難場所の確認を行うことができた。少人数のグループでクロスワードを完成するという目的達成のために協力し、1.2年生の親睦を深めることができた。 ・2.3年生の交流として、国家試験前に2年生から3年生へ激励の手紙を渡した。	⑦科の行事について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
	・1・2年生合同実習による交流	1年生はこれからの学びの目標として、2年生はこれまでの1年間の知識・技術の確認と先輩としての自覚を持てるようにする。実施内容も検討し、各学年の教育的効果にも考慮する。	A		・第1回目を4月30日（金）に終日実施。第2回目は新型コロナウイルス感染症拡大の為、10月4日（月）に合同実習を実施。2年生が上手にコミュニケーションをとり1年生も安心した雰囲気で実習に臨んでいた。1年生の感想では2年生への尊敬とこれからの学習への期待があった。患者としての意見も率直に記入してくれたものもあり担当学生や指導にあたる教員も再考する良い機会となっている。コロナ禍で相互実習を実施することに対する不安から、中止も考えたが両学年にとって学びの多い実習であるため実施することが出来て良かったと思う。	
	・福岡県歯科衛生士連絡教育協議会	協議会では加盟校の教育や募集対策の参考となるようそれぞれの取り組みや歯科衛生士の動向について等の積極的な情報収集に努める。また、専任教員研修では教育に応用できる内容の研修を計画する。加盟校の教員との良好な関係を築き、情報交換やネットワーク作りにも努める。	A		・8月6日(金）久留米歯科衛生専門学校が当番校として開催。新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、協議会のみ実施された。理事会報告、各校提出協議議題ににについて協議、情報交換された。また、福岡歯科衛生専門学校より高専連携プログラムについての説明と協力依頼があった。	
	・臨床実習事前、事後懇談会	実習指導者に臨床実習の位置づけを理解していただき、学生が歯科衛生士となるための学びを得られる実習実施を目指すことや、実習指導者と学校・教員が臨床実習での問題点や改善点等の意見交換や情報交換を活発に行い、実習目的の共通理解を図るとともに良好な関係を保つことを目的として実施する	A		・8/28(土)本校多目的ホールにて事前懇談会実施予定で準備を進めていたが、福岡県の緊急事態宣言発令により急遽Web開催に変更した。実習施設41施設の内26施設の指導者の方に出席頂いた。急な変更ではあったが滞りなく開催でき、チャット等で質疑応答にも対応することができて、有意義な会となった。学生との面談は、学生が事前に実習施設を訪問することで代替としたが、医院のご協力もあり特に問題なく行うことができた。 ・事後懇談会は新型コロナウイルス感染症拡大予防の為中止とし、報告書等を実習施設に郵送した。	

評価項目		具体的方策	自己評点		自己評価（成果と課題）	学校関係者評価
	・登院式	実施後の振り返りを行い、常により良い内容になるよう検討する。 1年生が2年次の目標となるように、また2年生は臨床実習に臨むという緊張感のある式典を実施する。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために1年生が出席しない場合はビデオ撮影等をし、1年生にも見せることで臨床実習に臨む意識作りを行う。	A		・昨年度より2年生の歯科診療所臨床実習開始の時期を変更したため、10月22日(金)に実施。 ・感染症対策として理事長と保護者（12名）に出席いただいた。 ・昨年同様、福岡県歯科衛生士会の会長から式辞を頂き、副校長に代読していただくことで登院生の気を引き締めることができた。 ・今年度もLED内蔵で色とりどりに光るキャンドルをメインキャンドルに用い、バイオリンの生演奏で式典の雰囲気つくりを行った。 ・マスク着用で例年と異なる形式ではあったが開催することができて良かったと思う。 ・昨年の反省を生かし、1年生はリモートで別室から視聴した。 →緊張感のある式典の様子に、臨床実習に向けた意識が高まった様子が見られた。	
	・研修旅行	臨床実習の間でもあるため学生の目的意識の向上や視野の改革になるもの、また、2年次での実施に意義を持たせる内容を業者の協力を得ながら早期より企画する。 昨年延期とした新3年生にも臨床実習や就職時に有益となる内容を早期より企画し、安全に実施できるようする。	B		・新型コロナウイルス感染症拡大により3年次に延期。 ・昨年度延期した3年生は関東方面への研修旅行は中止とし、代替として11月1日（月）に日帰り研修を実施。 →ノートルダムマリノア館内見学とテーブルマナー研修、国家試験合格祈願(太宰府天満宮)を行うことで、クラスの団結を深めると共に思い出ができた。	
⑧就職	・第一希望先への就職	朝の挨拶や教員とのかかわり等 日々の学校生活の中で、挨拶、返事、笑顔など新人に求められるものを身に付けるようにし、面接時に自信を持った態度で臨めるように指導する。また、1年次から学生の個性を多面的に評価し就職活動等で不利になりそうな要素がある場合は、指導改善を行っていく。 早期にポートフォリオを活用し働きたい医院・会社を定めていく。また、就職するために何をすべきか個々に合ったアドバイスを適宜行う。	A	A	1年生 ：様々な業界で勤務する歯科衛生士の方の講話を聴く機会を設けた。（YAMAKIN/歯科医院：36期木村さん、アース製薬：田島さん、ブリルエッチ：末永先生） ：3月にライフプランセミナーを実施し、就職を含めた今後の人生設計について考える機会を設けた。 ：就職先アンケートを実施し、そのために今後何をすべきか面談を行うことで、就職に向けた意識付けを行うことができた。 2年生 ：臨床実習の経験から様々な分野に興味を持つ学生がみられ、2年次から就職先を検討する学生も見られた。 ：求人票の確認について早めに声掛けをし、意識付けをした。 ：出席状況や成績、模擬試験結果等も就職活動へ関連して取り組めるよう指導した。 ：就職先アンケート実施 ：面談時の声掛け 3年生 ：7月大学病院勤務の卒業生2名に大学病院での業務内容ややりがいなどを講話で話していただいた。大学病院に興味を持ち、専攻科への進学を決めた学生もいた。 ：9月にはキャリアサポートセンターによるジョブカードを活用した就職セミナーを実施し、自己分析から自分に合った歯科医院を見つける学生が多かった。 ：歯科医院から院長先生や歯科衛生士さんがお越しくださり、歯科衛生士の魅力や医院の取り組みを直接話して頂くことで、就職につなげることができた。	⑧就職について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。
⑨その他	・ワーク・ライフ・バランスの推進	日常業務は優先順位を持って取り組み、ムダや時間をかけすぎないよう働きかけを行い変形労働に対応する。 担任は副担任と連携をとり円滑なクラス運営を目指しながら、それぞれの有休、振休の取得を心がける。 また、教務主任は教員の業務の把握に努め、適切なタイムマネジメントを行い時間外労働を削減するとともに有休、振休の取得を促す。 必要に応じて時差出勤を行い、学生の補講等を行う。	B	B	・業務終了時間の可視化を継続。 ・休日出勤の際には全員振休取得を心掛けたが、難しい時期もあった。 ・国家試験対策期間だけでなく必要に応じて（臨床実習期間、試験前後の補習等）時差出勤を導入し、時間外労働減に取り組んだ。 ・業務過多にならないよう、業務分担に努めた。 →今後も教員間の連携を図り業務の遂行に務める必要がある。	⑨その他について、自己評点の変更なし ・適切な対応が図られていると認められる。